

# 問 復旧・復興事業の立替金の捻出方法は

# 答 国・県の補助金前金請求で調整を開始



太田 修議員

【震災復旧事業の進捗状況等について】

**問** 復旧事業費の総額と、村負担額及び一時立替金の捻出方法は。

**村長** 総額で約39億円、うち村の負担額が約6億円です。今後、農地や農業施設、廃棄物処理費の補助率が確定することや、復興住宅の建設事業費等が増加となる見込みです。復旧工事請負時の前払金、完了時に精算払いが必要で、補助金は工事完了後の精算となり、金融機関からの一時借入や、国や県と補助金の前金請求の調整を始めます。

**問** 農地等の復旧で、来春の営農への影響は。

**村長** 降雪期を考えると、全ての営農再開は不可能と考えます。

**農政課長** 姫川護岸工事の終了後に飯田地区の1.5ha、水路復旧が必要な青鬼、立の間地区で5haが困難と考えています。一部作付け可能な農地については、県と調整を行います。

**問** 震災での不能耕作地への支援金の継続と財源は。

**農政課長** 継続を検討し、財源は減反面積分による市町村間での調整を考えています。

【人口減少対策について】

**問** 空き家や休耕農地を活用した移住・定住対策や、商工会主催の「創業塾」参加者への出口保証は。

**村長** 農業法人への村や県外からの従事者も多く、農業は移住定住の大切な要素と考え

ますが、耕作条件や生産性の理由から厳しい面もあると考えます。創業希望者には、空き家や休業店舗に関する情報提供を行います。

**問** 空き家の実態把握と状況確認は。

**総務課長** 地区役員からの情報提供です。国の「空き家対策特別措置法」に定める特定空き家に対する村の規定はありません。

【産業振興による安定的な財源確保について】

**問** 観光局の検討委員会結果と改善策は。

**村長** 分担金総額を約半分の1500万円程度に減額し、広く会員を募ることを検討しています。現行予算総額1億2000万円に固執することなく、事業の見直しや補助金の活用等、新たな財源確保も検討します。

**問** 観光地経営計画の進捗状況と周知は。

**村長** 来年1月に計画を取りまとめ発表する予定です。

ワーキンググループから「村長が先頭に立つてこの計画を実行する強い意思を村民に示してほしい」との意見もあり、住民や事業者へ計画の発信と確実に事業を押し進めます。

**問** 「NAGANOモビリティ」構想の進捗状況と村の考えは。

**村長** 県の「NAGANOモビリティ研究会」は、新しい旅行スタイルの確立に向け、松本駅から白馬駅までを「北アルプス・パノラマサイクルルート」に設定しました。県は、統



急ピッチで進む災害復旧工事

一的な案内サイン、レンタサイクル等の整備、安全面、実施主体と協力機関、観光消費等様々な課題があり、さらに研究を進めたいとしています。村も県と共に実現を目指します。

**問** 「山の日制定」を契機に、山岳イベントや新規計画は。

**村長** 「貞逸祭・白馬連峰開山祭」50周年の節目を迎え、村全体で盛り上げたいと考えています。また大雪溪から榎池自然園ルート整備や、輸送手段として「猿倉から御殿場ルート」の整備に向けて考えています。